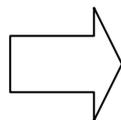


## 特別支援学級 生活単元学習指導案

単元名 『おおきなかぶ』の劇をしよう

### 1 子ども達は

- 本学級は、2年生、3年生、4年生、5年生の児童が在籍している。障がいの特性や発達段階は様々である。
- 本学級の子ども達は、休み時間などの自由な時間は、ひとりで校庭に出かけたり音楽を聞いたり絵を描いたり、各々が好きなことをして遊ぶことが多く、一緒に遊ぶ姿はなかなか見られない。しかし、教師が仲介したりモデルを見せたりすることによって、物を共有して遊んだり相手を意識して競争したりすることができるようになってきた。また、朝の会の「スモールスピーチ」で“昨日した事”“今日の朝ごはん”などを発表したり、帰りの会で“今日がんばったこと”を発表したりと、自分が経験したことを自分なりの言葉で発表する練習をしてきている。このように、教師を介在にすると、友達と一緒に遊ぼうとしたり、自分なりの言葉で友達に伝えたりすることが少しずつできるようになってきた。
- 本学級の子ども達は、生活単元学習「がんばり発表会をしよう」、「クッキング」などの活動を通して、友達の姿を見て「すごいね」「上手だね」と誉めたり、「ぼくも一緒にしたい」と意思表示をしたりと、友達の活動に興味を示し、友達と一緒に取り組もうとする意欲が芽生えてきている。また、昨年度の生活単元学習「『〇〇さんのどうぶつレストランにようこそ』の発表会をしよう」では、子どもたちそれぞれが自分の役割を意識して、友達のせりふを待ったり友達の操作を手伝ったりと、友達と協力して活動する経験もしている。また、保護者の前で発表して拍手をもらって誉められたり、作った品物を教師に差し入れをして喜ばれたりした経験から、他者との関わりの中で自信をもったり成就感を感じたりする姿も見られるようになってきている。



### 2 教材は

- 本単元は、絵本『おおきなかぶ』から、自分たちでせりふを考えて劇を作り、それぞれ役割分担をして劇の練習をして教師や保護者に発表しようとするものである。劇を見せようという目標を持たせながら、課題を解決していく活動を設定することは、次のような価値があると考えられる。
  - ・ 絵本は、毎日の読み聞かせ楽しみにしていたり、休み時間に自分たちで自由に手にとったりしている姿を見ることができることから、絵本を題材として取り上げることは、子ども達の生活に身近なもので、興味・関心を引き出しやすい。（生活性）
  - ・ 手順表や絵、写真などを提示していくことで、自分の活動の見通しをもたせやすく、付加・修正しながら繰り返しの活動を仕組むことができる。（活動性）
  - ・ 劇を作り上げるという活動は、役割分担がわかりやすく、個に応じた役割を工夫することができ、個々の課題を設定することができる。（課題性・交流性）
  - ・ 友達と協力して劇をし、他者へ向けて発表するという活動は、友達との関わり合いを深めることができ、他者から賞賛され認められることで達成感や成就感を味わうことができる。（交流性・統合性）

## このようなかかわる力を身につける

### 【であう段階】

- 教師の提示する題材・絵本やパネルシアターに興味・関心をもつことができる。
- 視覚的教材や計画表を読み取り，単元・本時への見通しをもつことができる。

### 【はたらきかける段階】

- 絵本の登場人物や内容を理解し，名前・せりふを友達と一緒に考え話し合することができる。
- 視覚的教材や繰り返しの練習の経験から，劇のやり方を理解し，友達と一緒に演じることができる。
- 視覚的教材や計画表を読み取り，発表会への見通しをもつことができる。
- ビデオを見て振り返り，自分や友達のがんばりを見つけたり，発表したりすることができる。

### 【たかめる段階】

- 役割分担を理解し，友達と協力して発表会を行うことができる。
- 発表会を行い，教師や保護者，他学級の友達から賞賛されることで，達成感や成就感を感じることができる。

かかわる力を育むために，次のような場を設定し，次のような学習材を使って交流活動を工夫していく。

場	学習材
<b>【であう段階】</b> ○ 絵本やパネルシアターに触れ，絵本に出会う場 ○ カレンダーなどの計画表を見取り，見通しをもつ場	○ 絵本・パネルシアター ○ 単元計画表・紙芝居
<b>【はたらきかける段階】</b> ○ 友達と絵本の劇を考え，話し合う場 ○ 視覚的教材を読み取り，繰り返し劇の練習をする場 ○ ビデオを見て振り返り，友達と話し合う場	○ 絵本吹き出し ○ モデル ○ スクリーン画像・ビデオ映像 ○ これまでの学習経過の掲示 ○ 話し方カード・評価カード
<b>【たかめる段階】</b> ○ 友達と協力して，発表会を行う場 ○ 発表会で，他者から賞賛される場	○ これまでの学習経過の掲示 ○ 役割分担表・発表会の流れ図 ○ 評価カード

## 4 めざす子どもの子ども姿は

- 劇をすることが分かり，単元の見通しをもって，視覚的な手がかりをもとに主体的に活動することができる。
- 友達と場や物を共有し一緒に活動する中で，友達を意識し自ら活動に誘ったり教えあったりと，協力して活動することができる。
- 「自分でできた」「ほめられた。うれしい。」という自己達成感や成就感を味わい，もっとやってみようという意欲をもつことができる。
- 活動を振り返り，自分なりの表現方法を獲得し，教師や友達に伝えることができる。

5 学習計画 ( 21時間 )

段階	学習活動と主な内容	※教師の支援	配時
であう	1 対象への興味・関心を引き出す体験的な活動や見通しをもつ活動をする。 (1) 絵本について知り、パネルシアターで絵本を動作化する体験をする。	※ 絵本の登場人物や内容に着目できるように、パネルシアターを掲示する。	1
	2 めあて1をもち、学習の見通しをもつための活動をする。 <b>めあて1 『おおきなかぶ』の劇をしよう。</b>	※ これからの活動に見通しをもたせ、興味関心を引くために、試しにパネルシアターで動作化する体験を行う。	1
／	(1) 紙芝居をみて単元計画を知る。 (2) 単元計画カレンダーを作成する。	※ 単元の流れを紙芝居で提示し、カレンダーを作成して見通しがもてるようにする。	2
	3 絵本のお話の内容や登場人物の名前・せりふを友達と一緒に考える話し合い活動を行う。 (1) 登場人物の名前を考え、話し合う。 (2) お話の場面の設定を考え、登場人物のせりふを話し合い、紙芝居をつくる。	※ 話し合っている内容がわかりやすいように、登場人物の名札や吹きだしを提示し、子ども達の前で書き込んでいく。	5
はたらきかける	4 操作活動を繰り返し、絵本や劇の内容を理解するための活動をする。 (1) 紙芝居を読み合い、劇の内容やせりふを理解する。	※ 実際の劇の練習を始める前に、パネルシアターを使用した操作の練習を行い、誰がどの役を演じているのか分かりやすいようにする。	① ②
	(2) パネルシアターを使って、劇の内容やせりふを理解する。 ○ 教師によるモデルを見てパネルシアターでの演技方を知る。 ○ パネルシアターを操作して、絵本の内容を理解する。 (3) 役割分担をして、実際に役になって演じる。 ○ 教師によるモデルを見て演技方を知る。 ○ 視覚的教材を見ながら、友達と役割分担をして実際に演じる。 ○ 自分たちの劇のビデオを見て振り返り、自分や友達のがんばりを賞賛する。	※ 衣装などを身につけ、誰がどの役を演じるのか分かるようにする。 ※ スクリーンに吹き出しつきの画像を掲示し、誰がどのせりふを言うか、見てわかりやすいようにする。	②
たかめる	5 めあて2をもち、学習の見通しをもつための活動をする。 <b>めあて2 『おおきなかぶ』の発表会をしよう。</b>	※ 単元の流れを紙芝居で提示し、カレンダーを作成して見通しがもてるようにする。	1
	(1) 紙芝居を見て単元計画を知る。 (2) 単元計画カレンダーを作成する。	※ 単元の流れを紙芝居で提示し、カレンダーを作成して見通しがもてるようにする。	5
／	6 模擬の発表の場を設定し、実際の発表会のイメージをもつ活動をする。 (1) 役割分担をして、発表会の流れを練習する。	※ 役割分担や流れ図など、自分で分かって動けるように、写真などを活用した表を提示する。	3
	○ プログラムや役割分担を提示し、発表会の流れを理解する。 ○ 小道具などの表現物を作成する。 ○ 実際に演じ、発表会の流れを理解する。 ○ 自分たちの劇のビデオを見て振り返り、自分や友達のがんばりを話し合う。	※ 繰り返し練習する場を設定し、見通しをもって動けるようにする。	5
たかめる	7 招待状を作成し、招待する教師や保護者、友達に渡しに行く。	※ 招待する人に、発表会の日程を自分で知らせることができるような招待状を作成する。	1
	8 発表会をする。 (1) 教師に向けて発表会を行う。 (2) 保護者に向けて発表会を行う。 (3) 6年生に向けて発表会を行う。	※ できるだけ、自分たちだけで進行できるように、支援を減らしていく。	① ① ①
たかめる	9 活動過程や結果を表現する場を設定し、自分なりの方法で表現する。 ○ 写真や絵を使用して、掲示物を作成する。	※ 個に応じた掲示物を作成できるようにする。	2

6 本時 「発表会に向けて、練習する場面」 ( 13 / 21 )

指導者 ○○ ○○ 場所 ○○○○教室

7 本時の目標

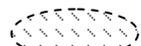
- 【A児】 ○自分のめあてに気をつけて、見通しをもって活動する。 ○友達の良いところを話したり、友達を誘ったりすることができる。
- 【B児】 ○自分のめあてに気をつけて、見通しをもって活動する。 ○自分のよいところを話したり、友達に教えたりすることができる。
- 【C児】 ○これまでの学習を想起し、見通しをもって活動する。 ○自分がすることを話したり、友達の動きに合わせてたりすることができる。
- 【D児】 ○自分のめあてを確かめながら、見通しをもって活動する。 ○自分のよいところを認めたり、友達の誘いに応じたりすることができる。
- 【E児】 ○自分のめあてに気をつけて、見通しをもって活動する。 ○友達の良いところ、こうした方がいいところを伝えたり、自分から友達と協力したりすることができる。

学習活動と内容 (※具体的な支援)

	A児・B児	C児	D児	E児
1 はじめのあいさつをする。				
2 本時のめあてと流れを確認する。 (1) 前時を振り返り、本時の流れを知り、本時の学習内容を確認する。 ※いつでも自分で読んで確認できるように、移動できるボードに掲示する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">めあて</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">がんばるところを話し合っ、発表会の練習をしよう。</div>				
(2) 前時の劇のビデオを見て振り返り、自分のがんばったところや友達の良かったところ・こうした方がいいところなどを話し合う。 ※ビデオを見る前に、視点をしばれるように声かけをするようにする。	※ 話し合いの視点が分かりやすいように、話し方を掲示する。	※ 話している内容が分かりやすいように、評価カードを掲示する。 ※ 本児の写真を数枚提示し、どこをがんばるか選択させる。	※ 教師と一緒に話し、自分で評価カードを掲示する。	※ 話し方を意識させ、友達に分かりやすいように、話すよう支援する。
(3) それぞれの子どもが、本時にがんばることを考え、発表する。				
3 みんなで協力して劇の準備をする。 ※子ども同士の間わりが見られるように、グループ編成して仕事を割り振るようにする。				
4 自分のがんばるところを確認して、発表会の練習をする。  ※繰り返しの練習の中で、自分で活動できる場面は、支援を減らし友達と考えながら活動できるようにする。	※ できるだけスクリーンを見ずに、友達の動きを見ながら活動するよう支援する。	※ 友達のせりふと自分のせりふを区別できるように、スクリーンを提示する。	※ 緊張して混乱してしまわないように、スクリーンにせりふを提示する。 ※ 調子がくずれたら教室の外へ出て、気持ちを切り替えて戻ってくるようにする。	※ スクリーンを見ずに、友達の動きを見ながら活動するよう支援する。
5 本時を振り返り、まとめをして次時への意欲をもつ。				

場： 発表会に向けて練習し，友達と協力したり伝え合ったりする場

○場を分けて構造化させ，自分で分かって主体的に活動できる場を設定する。

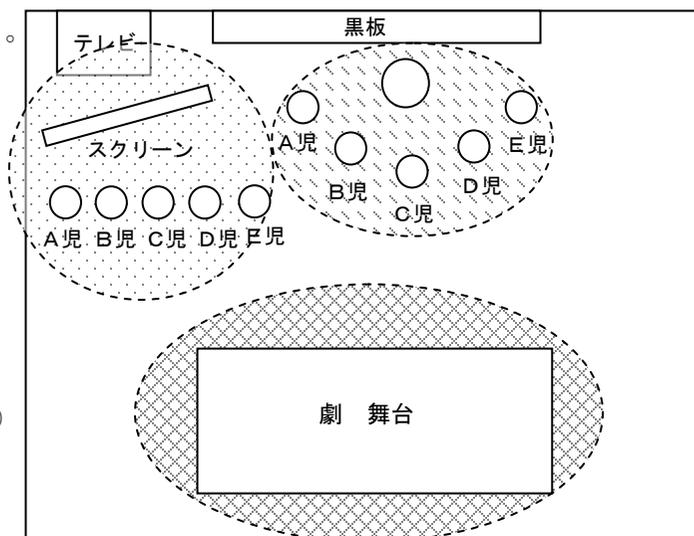
 本時の流れを確認したり，話し合いをしたりする場

 ビデオを見て，劇の様子を確認する場

 劇の練習をする場

○活動

- ・まず練習①を行い，ビデオで見て振り返って，がんばったことやこうした方がよいところを伝え合い，その話し合いをもとに，もう一度練習②を行う活動



学習材

- これまでの学習経過の掲示
- 本時の流れの掲示
- 役割分担表
- 劇のスクリーン画像
- ビデオ映像
- 評価カード・話し方カード